

「大洪水の襲来とノアの信仰」

2020年11月13日

洪水は40日間、地上で続いた。水は増して箱舟を押し上げ、箱舟は地上から浮かび上がった。(創世記7章17節) こうして、地上を動き回るすべての肉なるもの、鳥、家畜、地上に群がるすべてのもの、そしてすべての人は息絶えた。(創世記7章21節) すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地上を動き回るものは、それぞれの種類に従って箱舟から出た。ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥の中から選んで、焼き尽くすいけにえとして祭壇に献げた。主は宥めの香りを嗅ぎ、心の中で言われた。「人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。」(創世記8章19節～21節)

神は水と水を分けて、大空を造った。大空には窓があり、窓を開くと、上の水が雨となって降ってくる。雨は40日間、地上に降り注いだ。水は増して、箱舟は浮かび上がった。高い山々も水で覆われ、「地上を動き回るすべての肉なるもの、鳥、家畜、地上に群がるすべてのもの、そしてすべての人は息絶えた。」神は、洪水によって、息のある全てのものを消し去られた。ノアと彼の家族、そして、箱舟に避難した一つがいの生き物だけが残された。雨は止んだが、水は150日間、地上にみなぎった。箱舟がアララト山の上に止まった。ノアは箱舟の窓を開け、鳥を放した。鳥は水が濁くまで、行ったり来たりした。次に、鳩を放し、水が引いたかどうかを確かめた。鳩は足を休める所がなかったので、戻って来た。その7日後、もう一度鳩を放したところ、オリーブの若葉をくわえて、帰って来た。もう一匹の鳩を放つと、もはや帰って来なかった。地の面が濁いたからである。神はノアに「あなたは、妻、息子たち息子の妻たちと一緒に箱舟から出なさい」と言われ、共にいた生き物の全てを連れ出さなさい、それらが子を産み、増え、地に群がるようにしなさいと命じられた。そこで、ノアの家族は箱舟から外に出た。また、箱舟に避難した生き物も、種類に従って、外に出た。大洪水から救われた訳である。

箱舟から出て来たノアが真っ先にしたことは、主のために祭壇を築いたことである。そして清い家畜と鳥の中から選んで、焼き尽くすいけにえを献げた。近年、日本を始め、アジアの国々は、集中豪雨による経験したことのない大洪水に見舞われている。テレビの映像で見ても、恐怖心を煽られる。ノアが箱舟の中から見た、人と生き物を全滅させる洪水は恐れ以外の何ものでもなかっただろう。それから救われたノアは、畏れを持って、神へのいけにえを献げたのである。これが、砕かれたノアの信仰である。

神は、ノアが献げた「宥めの香りを嗅ぎ、心の中で言われた。『人のゆえに地を呪うことはもう二度としない。人が心に計ることは、幼い時から悪いからだ。この度起こしたような、命あるものをすべて打ち滅ぼすことはもう二度としない。』」そして、「地の続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬／昼と夜、これらはやむことがない」と、種蒔きと刈り入れができるように、規則正しい日々と季節を与えると心に決められた。

弟アベルを殺した兄カインの末裔のレメクは「カインのための復讐が七倍なら、レメクのための復讐は七十七倍」と豪語するほどの罪に陥った。アベルの代わりに与えられたセトの末裔も、神の徹底的な裁きを受けるほどの罪と悪に走った。神は、人は幼い時から悪いことを心に計り、神に逆らうけれども、二度と裁くことなく、季節ごとの実りを与えることと約束される。洪水物語は、人間の罪を厳しく裁く神の正義を描きながら、祭壇でいけにえを献げたノアに応え、人間を赦し、命を支えようと神は心を変えられたと伝えている。